

食と農の研究ニュース

2025年も残すところわずかとなりました。今年は夏の記録的な猛暑が強く印象に残っています。気象庁の発表によりますと、2025年の日本の平均気温は基準値よりも1.23℃前後高く、過去3番目の高さになる見通しだそうです。

さて今号では、農業生産を効率的に行うスマート農業技術のほか、府内で生産されたぶどうを使ったワインの地理的表示(GI)などの情報をご紹介します。

カウント付きスプレーによるナスの花数計測

環農水研では、スマート農業に関する研究の一つとして、普段の作業で使用する道具にカウント機能を組み込むことで、簡単に生育データを取得できる技術を開発しました(実用新案第3245601号)。

園芸グループでは、ナス栽培において安定的な着果のために花一つ一つにスプレーで着果促進剤を処理する作業に着目し、ナスの着果促進剤を処理する回数、つまりは後に果実となる花の数を計測するカウント付きスプレーを開発しました。このカウント付きスプレーは、大阪府南河内農と緑の総合事務所の協力を得て、「大阪なす」の産地である南河内地域の6農園以上で、すでに使用されています。生育状況の見える化や振り返りのほか、併せて開発している収量予測も試していただいているいます。

現在、スマートフォンアプリと連携するタイプの開発など改良も進めています。今後、南河内地域での活用を拡大するとともに、「水なす」の産地である泉州地域にも取り組みを広げていきます。

(園芸G 瀬上修平)



着果促進剤処理の作業



カウント付きスプレー

地理的表示(GI)「大阪」の第6回審査会が開催されました

2025年12月5日(金曜日)に環農水研の「ぶどう・ワインラボ」にて、地理的表示「大阪」管理委員会による第6回GI「大阪」審査会が開催されました。審査の結果、5社11銘柄がGI「大阪」ワインと認定されました。

葡萄グループは、審査項目の一つである理化学分析を担当し、総酸、揮発酸および総亜硫酸の分析を行いました。今後も「大阪」ワインに資する大阪産原料ぶどうの品質向上や、ワイン製造者と連携した醸造技術の向上を図っていきます。

※ 地理的表示「大阪」の生産基準について
は右の二次元バーコードを参照ください。
(葡萄G 未廣優加)



GI「大阪」に認定された11銘柄

物理的防除資材を利用したネギアザミウマの防除技術

ネギアザミウマは、ネギ、タマネギ、キャベツなどの葉に傷をつける害虫で、ウイルス病も媒介し、品質を大きく低下させます。この虫に対しては、殺虫効果が高い農薬が少なく、農薬以外の防除技術の利用が必要です。

防除グループでは、ネギ圃場において、光反射率の高いシート(反射資材)や赤色の防虫ネットを設置し、この虫に対する防除効果を明らかにしています。 (防除G 城塚可奈子)



ネギアザミウマ(左)とネギ圃場に設置した反射資材(右)

農業大学校学生への研究員による講義

環農水研の農業大学校では、就農や農業技術者を目指す学生を対象に、講義と実習を組み合わせた2年間の実践的な農業教育が行われています。

食と農の研究部は農業大学校と連携を図り、学生の農業に関する専門的な知識・技術習得に協力しています。

農業技術研鑽コースの学生を対象とした卒業論文のための研究指導や、各グループの研究員が園芸、土壤、野菜、植物防除、果樹、農産加工などの授業で講師を務め、最新の研究情報などについて講義を行っています。

(食と農の研究部 古川真)



食と農の研究部の研究員による講義
(左:果樹概論、右:農産加工)

食・農分野での最近の主なイベント、研究成果情報等

<イベント>

- ・セミナー&公募事業説明会「ホンマでっか!?お菓子の最新トレンドと商品開発のヒント」を2026年1月23日(金)に開催します。
- ・「大阪府スマート農業交流会」を2026年1月27日(火)に開催します。
- ・第4回農業園芸セミナー「土壤の診断と管理ー基礎から実践までー」を2026年1月30日(金)に開催します。



セミナー

<受賞>

- ・日本ブドウ・ワイン学会 学会賞(論文賞) 「土壤透水性が醸造用デラウェアの果実品質に及ぼす影響」



農業交流会

<論文>

- ・細霧冷房装置を用いた微酸性電解水の噴霧で殺菌剤耐性の灰色かび病菌の発生リスクを低くすることができるか? iPLANT 2025年3巻10号

<学会発表>

- ・「露地ネギ栽培における光反射シートの敷設方法の違いがネギアザミウマの防除効果におよぼす影響」 第29回農林害虫防除研究会
- ・「グラウンドカバープランツ「ダイカンドラ」の育苗に適した培地の探索」 第26回有機農業学会
- ・「デラウェアにおける果汁中の遊離アミノ酸とワイン香気との関係」 日本ブドウ・ワイン学会2025甲府大会
- ・「試験醸造した‘大阪RN-1’ワインの特徴」 日本ブドウ・ワイン学会2025甲府大会など

【食と農の研究ニュースに関するお問い合わせ先】

地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 食と農の研究部
電話:072-958-6551(代表) または [お問い合わせフォーム](#)まで →→

